

「隠れているもので、あらわにならないものはない」

ルカによる福音書 8章17節

聖学院中学校高等学校 教諭 角田 秀明

今、私の手元に新聞の切り抜きがあります。2002年(平成14年)4月18日の朝日新聞です。次のような記事が書かれています。

「実家の天井裏から見つかったのは、縄で縛られた木箱だった。虫に食われ、ぼろぼろになった紙の中から、色鮮やかな『美人画』が出てきた。95歳になった今も元気な母親。作品は女学生時代に描いた水彩画で、ほとんど無傷だった。『夕焼けのように、母にもう一度輝いてほしい。』と娘夫婦が来月展覧会を開く。」

作品を書いた水原ヨシエさんは1923年(大正12年)九州から上京。小石川にあった女子美術学校(現在の女子美術大学)の日本画高等師範科に入学。最終学年の4年生の秋、雨の中で写生し、肺炎になりかけた。

その際に見舞いに来てくれたクリスチャンの友人が、「見ずして信ずる者は幸いなり」というヨハネ20章29節を読んで祈ってくれた。それからヨシエさんは毎日この言葉を読んで祈っているうちに、幾日も続いていた高熱もひき体調も回復、すっかり元気になった。嬉しくて感謝の念で満たされたのでした。

寄宿舍の大きな部屋に、一人で大きな絹本(けんぼん)を広げ、何日もかけて描いたのがこの美人画であった。モデルとなったのは同級生で、彼女は病気のため在学中に亡くなったけれど、その友達の名を残そうとして描いた。

ヨシエさんは、学校を卒業後、熊本の八代高等女学校で美術の教師となりました。昭和2年(1927年)4月、八代高等女学校へ赴任した21歳の時、八代教会でバプテスマを受けた。学期末の休みには福岡の母親のもとに帰り聖書を読み聞かせた。熱心な天理教信者だった母親が救われてクリスチャンになった。

更にその頃、兄江上虎雄は東京の大学を卒業し、希望に満ちて一流会社に就職したものの、不況で倒産し、自殺を考えて母や妹に会ってから死のうと帰ってきたのですが、聖書の言葉にふれ、罪を悔い改めて十字架のイエス・キリストを仰ぎ救われたのでした。後に、献身して聖書学院に学んだ江上虎雄牧師は沖縄・那覇ホーリネス教会で伝道し、福島県の上倉教会の牧師として人生を全うしました。実にパウロの次の言葉が心に響いてきます。

「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。」(ローマ人への手紙8章28節・口語訳)

しかし、5年後、日本は戦時体制の強化により信仰弾圧が激しくなり、学校行事の神社参拝が全教師生徒に強制され、ヨシエさんはクリスチャンだったため、学校行事の神社参拝において最敬礼を拒んだことを咎められ、生徒の面前で顔を殴打されたうえ、即刻退職させられたのでした。生徒への別れの言葉もかけることさえ許されなかった。

家族に迷惑をかけないように教会に身を寄せ、その後は結婚して疎開や転勤で転々とし、家事に追われる日々が続き、絵を描く余裕など全くなかった。作品は傷まないように40年ほど前に天井裏に保存したらしい。誰の目にも触れずにいたが、長女光代さんが2001年の暮れ、実家に帰省した際に見つけた。和服姿の等身大女性、縦165センチ、横65センチの大作であった。

娘の光代さんは「この絵を多くの人に見てもらいたい」と夫の雅彦さんと展覧会を計画。当初、150人ほどと思っていたが、3日間で700名を超える来場者があり、「内面の美しさを感じ、心が癒された」と感想を言う人もいた。2002年5月3日展覧会の翌日、ヨシエさんは眠るように95歳の生涯を閉じた。

水原ヨシエさんの強い信仰と芸術は、長女光代さんに受け継がれ、その長女道子さんは3代目のクリスチャンであると同時に、私ども浦和バプテスト教会の山中牧師のご夫人でもあります。内村鑑三や矢内原忠雄が政府や社会の目を恐れず信仰をつらぬいたこと、キリストのゆえに迫害を甘んじて受けたことは有名ですが、同じ時代、うら若き一女性教師が決然としてキリストに従ったこと、更には私ども身近にそのお孫さんがおられたことは嬉しい発見であり驚きでした。

その後、2004年3月10日の西日本新聞に、「母の絵どこに」という記事が掲載されました。5月に福岡市で遺作展を開くに当たり遺族らが、呼びかけたものでしたが、嬉しいことに次々と2作品が発見されました。いずれも「芳江」というサインと印があったのです。

生前、「師範科の学費工面のお礼に親類へ作品を贈った」と話していたことを子供たちは聞いていたので、どこかに残っているのではと期待を抱いていたのでした。

実に次のみ言葉の真実が迫ってくるようです。

「主に自らをゆだねよ 主はあなたの心の願いをかなえてくださる。あなたの道を主にまかせよ。信頼せよ、主は計らい あなたの正しさを光のように あなたのための裁きを 真昼の光のように輝かせてくださる。」（詩編37編4～6節）

2015年6月10日 聖学院中学校高等学校 全校礼拝